

平成 23 年度中間決算の概要について

平成 23 年 12 月 15 日  
(社) 第二地方銀行協会

会員行の平成 23 年度中間決算(単体)の概要は以下のとおり。

(注) 計数は平成 23 年 9 月末時点の会員行 42 行ベース(特記ある場合を除く)

1. 損益概況(業務純益:1,753億円、経常利益:1,079億円、中間純利益:717億円)

平成 23 年度中間決算の業務純益は、資金利益や国債等債券関係益が減益となったものの、一般貸倒引当金が大幅な戻入となったため、1,753 億円と前年同期比 31 億円、1.7%の若干の減益となった。

経常利益は、個別貸倒引当金繰入額の減少および貸倒引当金戻入益の計上等から 1,079 億円と同 +200 億円、+22.8%の増益となり、これを受けて中間純利益も 717 億円と同 +162 億円、+29.2%の増益となった。

2. 業務純益の状況

(1) 資金利益(4,680 億円、前年同期比 99 億円、2.1%)

資金利益は、前年同期比 99 億円、2.1%減益の 4,680 億円となった。

この内訳をみると、預貸金収支は、貸出金残高(平残)は増加したものの、預貸金粗利鞘の縮小により、同 51 億円、1.3%減少して 3,898 億円となった。

また、有価証券利息配当金は、有価証券利回の低下により、同 42 億円、4.9%減少して 821 億円となった。

(2) 役務取引等利益(319 億円、前年同期比 5 億円、1.5%)

役務取引等利益は、投信窓販業務手数料は増加したものの、預金・貸出金業務手数料および為替業務手数料の減少等を主因に、前年同期比 5 億円、1.5%減益の 319 億円となった。

(3) その他業務利益(316 億円、前年同期比 38 億円、10.7%)

その他業務利益は、国債等債券売却益の減少を主因に、前年同期比 38 億円、10.7%減益の 316 億円となった。

(4) 経費(3,670 億円、前年同期比 +2 億円、+0.1%)

経費は、3,670 億円と横ばい(前年同期比 +2 億円、+0.1%)となった。

### 3 . 不良債権処理の状況

不良債権処理額は、取引先の経営改善に向けた取組みを強化したこともあり、309 億円と前年同期比 303 億円、 49.5%の大幅な減少となった。

また、金融再生法開示債権(破産更生等債権、危険債権、要管理債権)は、倒産件数の減少等を主因に減少した一方、危険債権および要管理債権は増加したため、前年度末比 +407 億円、 +2.5%増加して 1 兆 6,998 億円となり、開示債権比率も同 +0.08%ポイント上昇して 3.81%となった。

### 4 . 経常利益および中間純利益の状況

経常利益は、業務純益が若干の減益となったものの、臨時損失が縮小したことから、1,079 億円と前年同期比 +200 億円、 +22.8%の増益となった。

臨時損益は、個別貸倒引当金繰入額が減少したことや、貸倒引当金戻入益等が今年度より「特別利益」から「臨時収益」での計上に変更となったこと等を要因に、損失が縮小した( 674 億円の損超と、同 230 億円の損失縮小)。

この結果、中間純利益は、同 +162 億円、 +29.2%増益の 717 億円となった。

### 5 . 単体自己資本比率[国内基準 41 行](自己資本比率:10.63%、Tier 比率:8.30%)

単体自己資本比率は、自己資本額が中間純利益の増益や増資等により増加し、リスクアセットはほぼ横ばいとなったことを受けて、前年度末比 +0.32%ポイント上昇し、10.63%となった。

また、Tier 比率は、同 +0.32%ポイント上昇し、8.30%となった。

### 6 . 預金および貸出金(未残)

#### (1) 預金(58兆5,530億円)

預金(未残)は、前年同期末比 +1兆4,903億円、 +2.6%増加して 58兆5,530億円となった。預金者別にみると、要求払預金を中心に一般法人預金および個人預金とも増加した。また、一般法人、個人とも為替円高を背景に外貨預金は増加した。

#### (2) 貸出金(43兆9,905億円)

貸出金(未残)は、前年同期末比 +6,166億円、 +1.4%増加して 43兆9,905億円となった。

以 上